

AMD Aの主な活動

1984年8月 アジア医師連絡協議会（AMD A）設立
 1988年8月 インド無医村巡回診療プロジェクト
 1991年11月 アジア多国籍医師団構想を決定
 ◆緊急支援 フィリピン（火山噴火）
 1992年1月 AMD Aネパールクリニック開所
 ◆緊急支援 バングラデシュ（ミャンマー難民）ネパール（ブータン難民）カンボジア（難民帰還）インドネシア（地震）
 1993年
 ◆緊急支援 ソマリア（難民）バングラデシュ（サイクロン）ネパール、バングラデシュ（洪水）インド（地震）
 1994年10月 「おかやま国際貢献NGOサミット」開催
 ◆緊急支援 モザンビーク（難民帰還）カンボジア（洪水）ルワンダ（難民）
 1995年
 ◆緊急支援 兵庫県（阪神淡路大震災）チェチェン（難民）サハリン（地震）タイ（同）メキシコ（同）インドネシア（同）フィリピン（台風）
 1996年
 ◆緊急支援 インドネシア（地震）中国四川省（雪害）中国新疆ウイグル自治区（地震）レバノン（内戦）バングラデシュ（竜巻）中国貴州省（洪水）ケニア（赤痢）インド（サイクロン）
 1997年12月 AMD Aカンボジアクリニック開所
 ◆緊急支援 福井県（タンカー重油流出事故）マレーシア（洪水）イラン（地震）バングラデシュ（サイクロン）イラン（地震）インドネシア（同）インド（サイクロン）ベトナム（台風）カンボジア（火災）ソマリア（洪水）
 1998年
 ◆緊急支援 中国河北省（地震）アフガニスタン（同）ボリビア（同）ロシア（洪水）インド（サイクロン）パプアニューギニア（津波）バングラデシュ（洪水）中米（ハリケーン）
 1999年2月 アフガニスタンのワクチン停戦調印式
 ◆緊急支援 コロンビア（地震）アルバニア、ユーゴスラビア（コソボ難民）マレーシア（感染症）トルコ（地震）東ティモール（避難民）台湾（地震）インド（サイクロン）ベトナム（洪水）トルコ（地震）ベネズエラ（洪水）
 2000年
 ◆緊急支援 モザンビーク（洪水）カンボジア（水害）ミャンマー（洪水）
 2001年
 ◆緊急支援 エルサルバドル（地震）インド（同）ミャンマー（洪水）米国（同時多発テロ）パキスタン（アフガン難民）
 2002年2月 ネパール子ども病院篠原記念小児棟開所
 11月 AMD A「魂と医療」のプログラム開始
 ◆緊急支援 コンゴ（火山噴火）インドネシア（洪水）
 2003年
 ◆緊急支援 中国新疆ウイグル自治区（地震）ケニア（洪水）アルジェリア（地震）バングラデシュ（洪水）スリランカ（同）イラン（地震）
 2004年
 ◆緊急支援 バングラデシュ（洪水）玉野市（高潮災害）ハイチ（洪水）スーダン・ダルフル（紛争）インドネシア（地震）新潟県（中越地震）インドネシア、スリランカ、インド（スマトラ沖地震）
 2005年8月 岡山大と連携協定締結
 ◆緊急支援 インドネシア（地震、洪水）米国（ハリケーン）パキスタン（地震）グアテマラ（豪雨）
 2006年7月 国連経済社会理事会「総合協議資格」取得
 ◆緊急支援 フィリピン（豪雨、台風）ネパール（デモ）インドネシア（地震、洪水、津波）
 2007年
 ◆緊急支援 スリランカ（洪水）石川県（能登半島地震）ソロモン諸島（地震）パキスタン（サイクロン）新潟県（中越沖地震）ペルー（地震）インドネシア（同）ベトナム（台風）バングラデシュ（サイクロン）
 2008年
 ◆緊急支援 ボリビア（洪水）ネパール（ブータン難民キャンプ火災）中国四川省（地震）ミャンマー（サイクロン）ホンジュラス（洪水）ネパール、インド（同）スリランカ（サイクロン）パキスタン（地震）
 2009年8月 高知大医学部と連携協定締結
 11月 インドAMD Aピースクリニック開所
 ◆緊急支援 インドネシア（地震）中国四川省（同）イタリア（同）バングラデシュ（サイクロン）ネパール（下痢）フィリピン（台風）サモア諸島（津波）インド（洪水）
 2010年7月 岡山県立大と連携協定締結
 ◆緊急支援 ハイチ（地震）チリ（同）中国青海省（同）パキスタン（洪水）インドネシア（火山噴火）
 2011年12月 AMD A大槌健康サポートセンター（岩手県）完成
 ◆緊急支援 ブラジル（洪水＝総社市と合同）パキスタン（洪水）ニュージーランド（地震）宮城県、岩手県など（東日本大震災）タイ（洪水）トルコ（地震）ミャンマー（洪水）フィリピン（同）
 2012年4月 新庄村とAMD Aインドネシア支部が連携協定締結
 8月 日本モンゴル友好病院開院
 ◆緊急支援 フィリピン（台風）バングラデシュ（洪水）インドネシア（同）モンゴル（同）フィリピン（同）グアテマラ（地震）
 2013年9月 岡山県立大、総社市と3者連携協定締結
 10月 社会福祉法人恩賜財団済生会支部岡山県済生会と連携協定締結
 ◆緊急支援 インドネシア（洪水）ミャンマー（暴動）中国四川省（地震）バングラデシュ（ビル倒壊）インド（洪水）山口、島根県（豪雨＝総社市と合同）アフガニスタン（洪水）パキスタン（地震）フィリピン（同、台風＝総社市と合同）
 2014年7月 クアラルンプール事務所を開設
 8月 総社市、九亀市と3者協力協定締結
 ◆緊急支援 フィリピン（台風）インドネシア（洪水）ボスニア・ヘルツェゴビナ（同）中国雲南省（地震）京都府福知山市（豪雨）広島市（土砂災害）パキスタン、インド（洪水）

救援と復興 どこへでも



台風被害を受けたフィリピン・バナウ島での医療支援活動
 2013年11月21日（AMD A提供）



緊急医療支援の活動費に充てるため、街頭で募金活動を行うAMD Aメンバー＝今年1月、岡山市北区本町



建物が倒壊したハイチの首都ポルトープランス付近で情報収集するAMD Aメンバー＝2010年1月18日（AMD A提供）

「AMD A」は1984年8月、開業医だった菅波茂AMD Aグループ代表(67)が設立した「アジア医師連絡協議会」(The Association of Medical Doctors of Asia)が始まり。その頭文字を取って、2001年のNPO法人化を機に、正式名称となった。

当初はインドの無医村での診療活動を中心に展開。1990年代から被災地などで緊急救援を始め、生死を分ける境とされる災害発生後72時間以内に医師や看護師らによる医療支援チームを派遣する。

緊急救援が終了した後は現地の要請に従って、復興にも携わる。中長期のプロジェクトがそれで、平和構築▽生活水準の向上▽教育支援▽健康増進を4本柱に、多国籍医師団の編成や農業支援、奨学金の提供、巡回診療など多彩な事業を展開している。

AMD Aの強みは地道に築いたネットワーク。多くの事業を取り仕切るAMD A本部の常駐スタッフは15人ほどだが、緊急時に協力するボランティアの医師や看護師らは国内に約500人、海外にも150人以上登録しており、機動的な活動を支えている。

アジアで新事業模索

AMD Aは今年、新たな挑戦を始めた。7月、日本人職員が駐在する初の海外事務所をマレーシアのクアラルンプールに開設。アジア各国への交通の便がよい拠点性を生かし、新たな事業の展開を模索する。成澤理事長は「アジアをフィールドに、次世代の人材育成にも取り組み、社会貢献を続けたい」と話す。

AMD Aは今年、新たな挑戦を始めた。7月、日本人職員が駐在する初の海外事務所をマレーシアのクアラルンプールに開設。アジア各国への交通の便がよい拠点性を生かし、新たな事業の展開を模索する。成澤理事長は「アジアをフィールドに、次世代の人材育成にも取り組み、社会貢献を続けたい」と話す。

海外では被災地に近い支部を中心に、現地のNGOなどと連携。昨年11月、台風30号で甚大な被害が出たフィリピンでは軍とパートナーシップを取った。

「最も大切なのは持続性だ」と菅波代表。継続性を担保する一つが岡山県が定めた条列だ。2004年、全国の都道府県初の国際貢献条例を制定。県、市町村、県民、国際貢献組織が協働して災害時の救援や途上国の自立支援に取り組むことを定め、国際貢献を養う土壌をつくり出した。さらにAMD Aは、大学、行政、医療機関などと連携協定を締結。より迅速で、効率的な活動の基盤を固めている。

こうした「実動部隊」を支えているのは、県民の善意だ。継続的な寄付に加え、災害発生時には街頭で募金呼び掛け、活動費に充てる。「『人の役に立ちたい』という誰かが持つ思いを託され、活動が成り立っている」。成澤貴子理事長(56)は力を込める。

岡山・新庄「フードプログラム」



刈り取った稲をはで干しするフィリピン人研修生
 10月中旬、岡山県新庄村

途上国へ有機農業普及

海外での緊急救援で知られるAMD Aだが、国内でも発展途上国に対する支援活動を展開している。岡山県新庄村と協力して取り組む「フードプログラム」だ。

秋晴れの10月中旬、新庄村野土路地区の田んぼは黄金色に染まっていた。慣れない手つきで鎌を握り、稲を刈り取る子どもたち。傍らではフィリピン人研修生が手際よく、わらを束ねてはで木にかけていく。

フードプログラムはアジアへの有機農業普及が狙い。発展途上国で農法を定着させ、健康的で付加価値のある農産物を栽培し、農民の健康と収入を向上させたいというものだ。

「野土路農場」と名付けた田畑は約1畝。アジア諸国から受け入れた研修生とアドバイザーの新庄村民が協力して、米や野菜を栽培する。2012年にスタートし、これまでに4人の研修生を受け入れてきた。

アドバイザーは牛ふんを使った土作りや、アヒル農法など蓄積したノウハウを提供。6月に来日したフィリピン人研修生のティルソ・アディヴァ・マルティレツさん(53)は「日本の農業は機械化が進んでいるが、環境に配慮し、持続性のあるものだ。学んだことを母国で伝えたい」と話した。（伊丹友香）

AMD Aグループ6団体を束ねる菅波茂代表＝マレーシア・クアラルンプール在住＝に30年間の活動に対する思いや、今後の方針について聞いた。

菅波茂代表に聞く

「相互扶助」の精神で

人材育成にも力

平和構築できるのか。その疑問を解決してくれるキーワードが「多様性の共存」だと思ふ。

実現に必要なことは何か。30年の活動で見いだした答えが「相互扶助」だった。誰もが人の役に立ちたい気持ちを持っている。一方で援助を受ける側にもプライドがある。それをつなぐのは「困った時はお互いさま」という精神で、相反する思いを両立できる考え方だ。相手を尊

平和構築できるのか。その疑問を解決してくれるキーワードが「多様性の共存」だと思ふ。

実現に必要なことは何か。30年の活動で見いだした答えが「相互扶助」だった。誰もが人の役に立ちたい気持ちを持っている。一方で援助を受ける側にもプライドがある。それをつなぐのは「困った時はお互いさま」という精神で、相反する思いを両立できる考え方だ。相手を尊

AMD Aの理念には「多様性の共存」がある。

私がAMD Aを設立しようと思った原点は、高校生のころに出合った1枚の写真にある。太平洋戦争のニューギニア戦線で命を落とした若い日本兵が写っていた。「彼はなぜこのような死を迎えたのか」。物の見方や考え方の異なる人たちが、どうすればともに過

敬し、苦勞を共にすることで、支援を受け入れてもらうわけだ。

印象深い活動は、まず、1999年に岡山で行ったアフガニスタンのワクチン停戦調印式。「全てのアフガニスタンの子どもたちにワクチン接種が終わるまで戦闘を中止する」という医療和平だった。人類にとって普遍性のあるメッセ

海外だけでなく、国内の災害でも活躍。東日本大震災では発生直後から現在まで継続的な支援を続けている。加えて最近、人材育成に力を入れている。

人材育成は義務だと思っている。多くの人たちに支えられた恩返しとして、経験を次世代に伝える。東日本大震災の半年後から、岡山経済同友会の主催で

（聞き手・伊丹友香）